

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100298		
法人名	有限会社 アスト		
事業所名	グループホーム ほのぼのファミリー		
所在地	北海道上川郡東川町北町5丁目4番10号 (電話) 0166-82-5356		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年9月15日	評価確定日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年2月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	15,000~20,000円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(75,000円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	300円
	夕食	350円	おやつ	300/2~3ヶ月円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4			
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	66歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川町立診療所 村井内科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ほのぼのファミリー」は高齢者に対する福祉の複合的サービス提供主体として、平成18年2月から展開されている。東川町で関連施設全体が築きあげてきた実績や信頼を活かし、行事や地域との関わり、とりわけ地元高校からインターシップとして毎年受け入れているなど関連施設との連携の上実践を積み重ねている。本年6月より、業務改善・学習・事故対策・感染対策など4つ推進委員会を設置し、全職員が委員会に所属しサービス全体の向上と個々のスキルアップを目指そうとする意欲と姿勢を感じ取ることができた。また入居者はゆったりと落ち着いた雰囲気、利用者や職員の家庭的で和やかな雰囲気が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価での改善課題として、運営推進会議の充実・家族への通信の発行・研修会等の積極的参加・センター方式の更なる充実・火災時の地域住民の協力があげられていたが、全てにおいて真摯な姿勢で改善に取り組んだことが確認された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果は職員に伝わっており、気付きの機会として取り組まれています。また日々のケアを見直したり、ケアサービスの質の向上に向けた意識が今まで以上に高まっていることがうかがえた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の意義や役割等は十分理解し、定期的開催されている。参加メンバーから率直な意見をいただき、また地域福祉を担う姿勢が感じられた。また更なるサービスの向上に取り組むため、行政職員を招き行政との連携も図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用料金を毎月家族に持参して戴き、その都度利用者の近況を伝えている。また利用者のごことや家族にとってタイムリーな情報などを載せるなど工夫を凝らした「たより」を送付し、信頼関係の構築につなげている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 菜園・外食・カラオケ・行事・買い物、など気分転換や心身のリフレッシュができるよう積極的な外出支援がされている。また隣接の通所介護事業所と共同で、地域住民への働きかけが行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は常に「入居者の立場に立ち、日々の生活が安心して送れるような支援がしたい」という運営理念を掲げており、利用者が地域で暮らし続けることを支えるサービスとして、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念にプラスする形で職員間で具体的な理念を作成し、また職員は常にそれらを携帯して日常の業務の中で共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、関連施設合同での運動会や祭りには地域の方々に声をかけ、また高校の学校祭への参加、地域活性化事業、老人保健施設、他事業所のグループホーム、商工会主催の行事などへの参加を通じて地域の人達との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は職員に伝わっており、気付きの機会として取り組まれています。またケアサービスの質の向上に利用され日々の業務に活かされている。	○	管理者を含めた全職員が個々に自己評価を行い、それを持ち寄って検討し事業所全体の自己評価としてまとめられることが望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については定期的開催されている。メンバーは利用者、家族、役場職員、民生委員、管理者・職員で構成され具体的に取組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議のメンバーに役場職員が参加しており、日常から事業所全体との関連が深く、事業所単独あるいは関連施設を介して町との連携をとっている。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用料金を毎月家族に持参して戴き、その都度利用者の近況を伝えている。また利用者のことや家族にとってタイムリーな情報などを載せるなど工夫を凝らした「たより」を送付し、信頼関係の構築につなげている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所本体の運営懇談会・運営推進会議やその他行事の中で意見を聴けるよう工夫している。さらに来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりに取り組むなど意見や苦情・相談ができるように心掛けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職の際には、家族に報告し、また職員の異動などでは利用者にはダメージを与えないよう工夫している。新しい職員との馴染みの関係を作るためにも、10日程は引継ぎの期間を設けるなど利用者への配慮がなされている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時には2カ月の「採用時研修」期間を設けており、各担当者がケアごとに業務指導を行っている。また内部研修においては、職員が交代で講師を担当するなど相互のスキルアップを図る機会とし、外部研修においてもグループホーム協議会や保健所主催のセミナー等へ積極的に参加している。</p>	○	<p>新しい職員に対しては業務OJTなどを活用し、系統的な育成、また中堅職員には認知症ケア専門士などの資格取得されることを期待します。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修等へも職員が参加しやすいような体制作りを行い、また、お祭りや行事等にも地元の他グループホームとの行き来もあり、綱領の場を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みが行われている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>基本的には本人に見学をしてもらうことから始めるが、遠方等の事情で本人が来られない場合には管理者が出向き、本人・家族・関係機関と面談を行い、本人が納得したうえで、サービスが開始できるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム内には、利用者が家族と一緒に完成させたジグソーパズルや色彩豊かに塗られた塗り絵が飾られ、また菜園においては種まきから水やり育成方法、収穫に至るまで利用者の指示を受けながら職員が作業するなど共に学び、支えあう関係が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所の際には、センター方式によるアセスメントがきめ細かく行われ、本人の思いや意向が把握されている。また身近な家族からの聞き取りも行い、本人の希望を優位に検討している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式の活用で利用者本位の介護計画が作成されるよう、都度本人や家族または医療機関との話し合いが行われている。必要時には介護者と評価を行い、それぞれの意見が反映された介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の見直しと状況の変化に応じ、都度見直しが行われている。職員による利用者の日常的变化や思いを汲み取り、家族と話し合い現状に即した計画が作成されている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同事業所の運営で隣接された有料老人ホームやデイサービスセンターがあるため、多岐に渡る相談や受け入れなど柔軟に対応されている。またデイサービスの休日の際には同ホールを利用し、会議や研修等が開催されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が配置されており、利用者の日々の体調も把握し、主治医との連携も密に行われている。往診も可能であり、またかかりつけ医への受診や町立病院での予防接種など状況に応じ支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能な限り、ホームで過ごしてほしいとの思いから医師・本人・家族・全職員で話し合いを進めている。また胃ろう等の措置が必要となった場合も隣接する関連施設との連携により利用者の状態や要望をふまえ、いずれかの施設で入居を受け入れている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については入所時に管理者より説明と文章で同意を得ており、内容については掲示されている。言葉かけや対応を含め、必要時のコピーについても了解を得るなどプライバシーへの配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅で過ごされている延長と考えホームのウラ側の菜園に行ったり、お昼寝やリビングでテレビ・新聞を見たり、マッサージ機を使用するなど、一人ひとりのペースを大切に支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜の皮をむいたり、職員と一緒におやつやゼリーを作ったり、また歩行の安定されている方は自ら下膳もされるなど一人ひとりの好みや力量に合わせた支援がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の支援が行われているが、その日の体調等で入浴できない場合にも本人の要望を聴きながら清拭やシャワー浴で対応している。また入浴の長さにおいても疾患等に配慮しながら、希望に応じられるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活においても、一人ひとりの生活スタイルを尊重している。マッサージ機でリラックスすること・毎週カラオケ教室に通う・テレビで時代劇を楽しんだり、友人・知人を訪ねたりと可能な限り楽しみごと、気晴らしの支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望に応じ、散歩やスーパーへの買い物、また衣類の購入を希望された時は旭川まで同行するなど、一人ひとりの希望に添った支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室や玄関にも施錠することなく、開放されている。玄関においても安全のため夜間の施錠以外は換気のため開放にされているが、事故防止による利用者への目配りも行き届いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時のマニュアル(昼用・夜用)も事務スペースの確認できる位置に張っており、年2回の火災避難訓練にはウラに隣接する運送会社の協力も得られている。また隣接した同グループ職員とも何時でも連絡や応援体制が取れるようトランシーバーも準備されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量においては毎回チェックが行われ、生活シートに記録されている。また本人に適した食事形態(キザミ等)や必要時には介助を行うなど、一人ひとりの状況に応じた支援がなされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広く開放的な玄関には、程良い位置に椅子が置かれ、廊下や居間においても明るい日差しや窓からの風が心地良く入り、生活感や季節感が十分楽しめる雰囲気となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、使い慣れた椅子やテーブル、冷蔵庫などが置かれ、また出入り口には好みでのれんも掛けられるなど、自宅の延長につながるよう、居心地の良さを工夫されている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。